

編集後記

今回の **Best Value** は久しぶりに特集号として発刊いたしました。

全体テーマを「地域のリノベーション」とし、地方あるいは地域の再生・活性化に向けた特色ある取組を幾つかのテーマでご紹介させていただきました。

巻頭言や各研究員が文中で述べているとおり、先日、「ひと・もの・しごと創生法」が成立し、地域再生の推進が力強く進められようとしています。しかし、地方や地域の再生・活性化問題は、今に始まったものではなく、遡れば高度成長期の時代から指摘され続けた課題です。これまでも様々な手法が考えられ、取り組まれてきたところではありますが、中々、上手いかないのが現状です。以前、先進事例として取り上げられた地域・地区が衰退しているケースも見られています。

地方あるいは地域の再生・活性化は、一つの方法でまかなえるものでは決してなく、地域の「ひと」、「もの」、「かね」、「ちえ」を様々な掛け合わせながら、色々な「こと」をあちこちで興し、「ひと」、「もの」、「かね」、「ちえ」を循環させ続けていくことが大切と考えています。

よく地域づくりは「掛け算」といわれます。掛け合わせる要素のどれか一つがゼロになったら取組そのものがゼロになってしまう。そういうリスクを伴った取組です。

だからこそ、今回の全テーマである「リノベーション」が重要と考えています。一つのことを地道に取り組む場合でも、その過程では様々な改善があり、リノベーションがなされています。老舗が長年続いているのも、色々なリノベーションを行っているからにほかなりません。

今回の特集号では、地域再生を担う人づくりや地域での起業、移住・定住、多様な主体や地域間の連携・交流、都市問題や都市デザイン、シティセールス、中心市街地活性化や不動産活用、公民連携などを主な調査研究領域としているパブリックコンサルティング第一事業部の各研究員が、近年、注目あるいは着目しているテーマを取り上げ、まとめております。しかし、ご紹介している内容は、あくまで地域活性の一つのアイテムであり、全てではありません。ほかにも活性化の手法や進め方はまだまだ沢山あります。

このため、本号がお読みになった皆様の地域や場所のお取組に、ほんの少しでもヒントになれば、この上ない喜びでございます。

今後も研究員それぞれの研鑽と分野や事業部間を跨いだ連携に努め、各々の専門分野から半歩先行く発信を続けて参ります。引き続き、ご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

パブリックコンサルティング第一事業部長 目黒 義和